

# 地域とともにつくる観光コンテンツで 地域鉄道の魅力を 発信する

秩父鉄道は、30年以上の歴史を持つSL「パレオエクスプレス」の運行をはじめ、地域とともに汗を流してつくりあげた多くの観光コンテンツを持つ観光鉄道でもある。コンテンツ制作を担う企画部

にWEBサイト「おうちで秩父鉄道」や緊急事態宣言解除後にいち早く企画した各種イベントについての工夫、今の思いを伺った。



取締役執行役員 企画部長

坂本昌己

Masami SAKAMOTO

## コンテンツ制作で社員のモチベーションも向上

「おうちで秩父鉄道」は鉄道利用が減り、予定していたイベントが次々に中止となり、「実際の鉄道利用機会が少なくなっても、秩父鉄道とつながってもらいたい、そしてコロナが収束したら皆さんに当社線に乗っていただきたい」という思いで、企画部主導で立ち上げたサイトです。当社ではここ数年、YouTubeやSNSを活用した発信にも力を入れているので、そうした基盤がいち早いサイトの立ち上げにつながったと思います。

コンテンツは以前から当社で発信していたものに、新たに制作したものを加えました。特に秩父鉄道三ヶ尻線「前面展望」の動画は、同線が9月末で一部廃止になるので、そうした意味でも意義深いものとなりました。ステイホームを機会に皆さんにご覧いただき、秩父鉄道に親近感や関心を持っていただけたのではないかと思います。

現在の状況では先の見通しが立ちにくいので、大きなビジョンを決めるよりは、とにかくできることをやってみる。止まってしまっただけモチベーションも下がってしまいます。企画部のメンバーは若い社員が多いのでフットワークが良く、具現化も早い。何よりも、サイトを見ている方々と目線が同じなのだと思います。そうでなければこれほど見ていただけなかったでしょう。

## 感染防止対策に工夫しながらイベントを開催

当社の沿線地域には多くの観光資源があり、地域と協力しながらツアーやイベントの企画をつくり運営してきました。そうした地域の方との結び付きが財産となっています。こういう状況でも協力をしていただけますし、疲弊した地域を盛り上げるために何とかしたいという共通の思いがあります。緊急事態宣言の時から、これまでのイベントをどのような形にすれば実現可能かということはずっと考えていました。

秩父長瀬地域は屋外でのレジャーがメインとなるので、参加者やスタッフの検温やソーシャルディスタンスなど、感染防止対策に留意し

た中でイベントの内容を考え、早い段階で実現したのがハイキング企画です。開催の回数を増やして、1回の参加者の人数を少なくする。確かに手間と人手は増えて大変ではあるのですが、工夫しないと何もできないままになる。秩父長瀬地域を歩いてみたいというお客さまの声もあり、とても喜んでいただきました。

また以前行っていたSL車内でのイベントは難しいので、「えきdeマルシェ in ながとる」など駅を中心にしたイベントを開催しています。今後は駅を活用して地域の方々と連携できるイベントを行っていきたくて考えています。また、8月1日には三峰口駅構内のSL転車台公園プレオープン記念イベントとして(正式オープンは今秋予定)「ちちつ夏まつり」を開催しました。そのほか、秩父鉄道の関連施設を専用バスで巡るツアー「大人の秩父鉄道見学ツアー」や「夏のビールフェスタ in 長瀬」、今年初めての企画としては通常は立ち入れない熊谷貨物ターミナル駅構内で「秩父鉄道電気機関車撮影会」を開催しました。自己本位にならずに地域の方々とSNSでの反応を確認しながら実施しています。さらに、各イベントはこれまでは主に土日開催でしたが、夏休み期間中などは平日に振り替え、人数制限をして、お客さまが密にならないようにしていますので、安心して参加いただけたようです。「秩父鉄道はサイトを見ても実際に足を運んでも楽しい」と思われる環境づくりが今の私たちに最大限できることです。

## 個人に向けた訴求を行っていく

団体旅行やインバウンドが復活するにはまだ時間がかかると思いますので、今後は個人に向けた観光商品づくりが重要だと思っています。サイトで関心を持ってくださったお客さまに現地へいかに足を運んでいただくかがポイントになる。「都心から一番近い」と謳っている当社SL運行もこれまでは自由席が主体でしたが、来年度は指定席を設けて、事前に席が選べるようになります。

コロナ禍により、公共交通が不安に思われることもあり、これまで以上に乗客の安全と安心を遵守しながら、秩父鉄道と地域のファンづくりをして盛り上げていきたいと思っています。

## 沿線の宝を発掘し、 発信を続けていきたい

企画部 主任

春山彩花

Ayaka HARUYAMA



以前に三ヶ尻線の回送電車に乗る機会があり、私自身はディープな鉄道ファンではないので、利用者の目線で動画を撮影してみました。それを新設したサイトで公開したところ、大きな反響があり、とても嬉しかったです。あまり構えずに撮影し、公開したことが良かったのかもしれないですね。

コロナ禍で会社が休業となり、私自身、何をしてもよいものかわからず、社会も自分の将来もどうなるんだろうと漠然とした不安がありました。けれども上席から「今は厳しいけれど、先を見ていこう」と将来的なことを語っていただき、私たち若い社員も希望を持って、今、積極的に動かなければいけないと思うようになったんです。企画も、種のみではなく、アイデアを少し育てて具現化して提案すると、採用していただけることが多いんです。私自身は大学で観光を学び、コンテンツのヒントとなる宝探しが得意なので、今後も沿線や地域の宝を発掘し、発信していきたいと思っています。